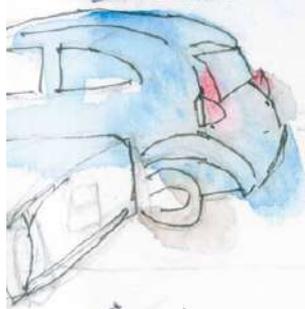
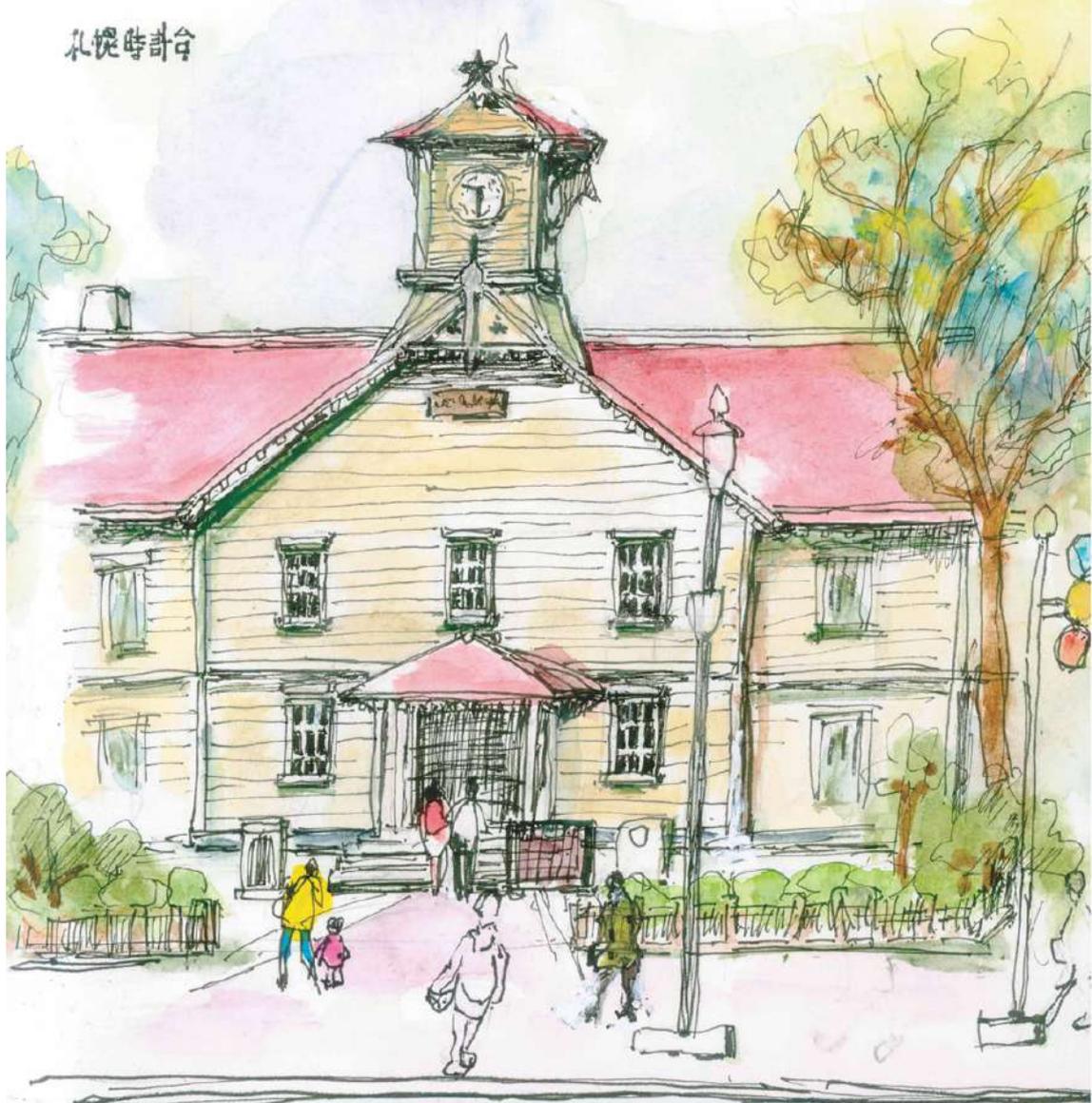


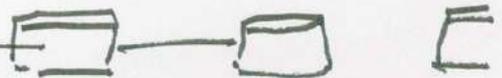
札幌時計台



命のことは

— 樋上先生をかこむ会 —

Gusio.



札幌医科大学退任時に
患者さん方からいただいた私（樋上哲哉）の宝物

患者様の文集『命のことば』から

患者様のこえ
ホームページに収録

は じ め に

命とは目に見えないものです。

しかし、命という事を考えるとき、そこには必ず人と人との絆が浮かび上がってきます。
この文集は、一人のドクターと多くの患者達が、共に、新たな命を必死に紡いだ絆を、手紙
というかたちあるものにしました。

尊い命のまわりには、さまざまな生活があり、ひたむきに生きる姿があり、生きたい、生き
てほしいと祈る心があります。

これは、まさに『命のことば』なのです



◎兵庫県宝塚市

今、私がこうして生きているのは樋上先生のおかげです。

20歳の冬に緊急搬送された兵庫県の病院にいらしたのが樋上先生でした。それまで元気だったので、手術するほどの状況になり不安しかありませんでした。そんな私を救ってくださる先生と巡り合えたことは人生の幸せだと思います。また緊迫した中でも今後の私の人生を考え、最大限にご尽力してくださいました。そのお心遣いに年齢を重ねてさらに感謝の気持ちがこみあげました。

おかげさまで手術したことを忘れるほど20代を満喫し、生涯の伴侶に出会い、33歳で第1子を出産、2013年に樋上先生に再手術をして頂き、その翌年に第2子を出産できました。親になって我が子が病気になった時の心労はどれほどか、身をもってわかりました。私の両親、家族の祈りを叶え、私の命と気持ちを救って頂き、二人の愛娘へと命をつなぐことができ感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございます。

◎北海道千歳市

「生きて欲しいんです」。

Dr 樋上の強くあたたかい言葉がまっすぐ私に向けられました。わたしはとまどっていました。

小さな私のような者に…そんな風に言って頂くような者ではありませんのに…。1時間ほど前に静かに診察室に入っていかれた姿とは一変して…力強い、頼もしいおことばでした。意外だったのです。

このことばは、手術までの間に幾度となく聞くことになったのでした。

考えてみますと、

『医療というものは、ただ手術をするだけのことではない。Drは患者の全体を、当人の信念、価値観も含めて考慮に入れるべきだ』。

そのような考えを実践して下さるDrでした。

小さな者にすぎないわたしのたった一つの願い、それは血を用いない医療ということでした。寛大な心で考慮して下さいました。

この願いは、とりわけDrにプレッシャーを与えるたいへんなことと思いますのに、実に大らかにしかも注意深く頼りがいのある対応をして下さいました。

ていねいなミーティングを重ねて、Dr 樋上とそのスタッフになら喜んで身を委ねてもいいと決意することができました。

入院生活は楽しいものでした。

そのままでは生きられないという現実には直面していましたのに…。

命 輝かしく 貴重なもの

はかない面もありながら なんと強靭なことか！今 実感しています。

朝ごとに 感謝しています。

Dr 樋上とスタッフのみなさまほんとうにありがとうございました。

◎北海道名寄市

私は手術後病気のこと、将来のこと、とても不安で考えない日はないほど毎日そのことを考えては泣き、悲しい気持ちでいっぱいでした。通院の際も最初のころは診察室へ入って出るときには泣いてしまっていました。それでも樋上先生は、私のどんな小さな不安も聞いてくれ、不安を吹っ飛ばしてしまうように明るく返してくれました。だんだんと前向きに考えられるようになり、今は元気に毎日を過ごせています。ありがとうございました。

◎北海道（お母様より）

娘が医大に入院をしたのは、3年前のちょうど今頃6月のことでした。大学に入学して間も無くの健診で異常が見つかり医大で診てもらう事となり、そのまま入院となりました。

医師から病状を説明された時は気が動転してしまい、生きた心地がしませんでした。その2日後、手術をして下さるといふ樋上先生が病室に来た時のことを忘れることはできません。樋上先生はとてもにこやかで、病気のこと、手術のことを話して下さいました。私の不安は徐々に安心へと変わり、気持ちが落ちついていきました。私には病室に来た時から樋上先生がとても輝いて見えていました。

娘は今とても元気に生活しています。樋上先生、手術をして下さって本当にありがとうございました。

その後定期健診でお世話になっておりますが、今回も大丈夫だったと聞かされる度に私は胸を撫で下ろしています。

また何年後かに娘は再び手術を受けなければなりません。その時が来ましたら、樋上先生どうかよろしくお願い致します。

未永くご活躍されることをお祈り申し上げます。

◎北海道豊浦町

息子の病気（狭心症、心筋梗塞）が他の病院にて発覚し、その病院より、当院ではこの手術は出来ませんと言われましてから…樋上先生の所までたどり着く事が出来たのは、今思っても奇跡のような偶然の導きだった様に思っています。

平成25年9月12日の発覚から9月25日医大での初受診まで、どの様に日々過ごしていたのか…私には記憶がありません。

只々“息子を助けて下さい！”と祈るばかりでした。

あの日初めて樋上先生とお会いした時、“息子を救って下さる方はこの先生しかいない”と強く確信いたしました。

自信に満ちた力強い言葉と穏やかな笑顔。

9月22日手術日。午前8時15分入室。長い長い1日の始まりでした。

主人と言葉もなくみつめ合う事しか出来ませんでした。手術室の扉が開閉のたびに胸が張り裂ける様でした。時間は流れ外は暗くなっておりました。午後6時5分終了の連絡。その時“リセットしましたヨ！血管もコレステロール動脈硬化も見られず3ヶ所のバイパスできましたヨ。ニコ！ニコ！と笑顔で言われた先生のお姿が涙でかすんでいましたが今でもはっきり覚えています。

樋上先生のやさしい言葉と笑顔がどれほど私達家族を支え救って下さった事、心から感謝の気持ちでいっぱいです。

息子は完治とは言えませんが自己管理で頑張っています。

これからもお世話になる事と思いますがよろしく願いいたします。

樋上先生を初めスタッフの先生方々看護師の方々にも心からお礼申し上げます。

息子が退院してから“お医者さんは、本当に過酷な職業だよ”と言っておりました。どうぞ先生方々もお身体をご自愛下さいまして、多くの人々の命を救って下さいませ。

本当にありがとうございました。

○北海道むかわ町

感謝

セカンドオピニオンであったことなのか、要領も得ず医大病院を受診しました。後になってわかったのですが、診察は樋上教授先生だったのです。ラッキー付いていたのです。診断から心臓はもっても2年位でないか、手術は難しいものでない「あなたは歩いてきたのだから歩いて帰れますよ」のこ趣旨の診断でした。

瞬間ドキッとしましたが「手術お願いします」と申し上げました。やがて手術も終り段々我に返り、廻りが感じられたとき「生き返った」次の瞬間、涙が溢れ例えのない幸せを感じたのです。樋上教授の高度施術、スタッフ先生方看護師のみなさま感謝のみです。

どうぞご自愛くださいまして、人生再起の機会を多くお与えくださいますようお願いし、先生の益々のご発展をお祈り申し上げます。

◎女性

私は心臓の手術は難しい、リスクが高すぎるとずっといわれていたもので、初めて外科受診した際、樋上先生から「大丈夫だよ…」といわれた時には神様に会ったような気持ちになりました。先生のことを心から信頼することができたので、手術室へ行く時も以前のように不安な気持ちよりも希望の方が強く必ず成功して戻ってくるのだと確信することができました。

そして、それは夢ではなく現実になりました。

先生をはじめとする私の手術のために力を尽くして下さいましたすべての人たちに心より御礼申し上げます。本当にいくら感謝してもしきれないと思っております。

先生が病室に来て握手をして下さった時のことを、私はきっと一生忘れられないと思います。先生の手はとてもふわっとしていて大きく、暖かく包み込んでくれるような優しさがありました。

ああ、この手が私を救って下さったのだと思うと胸がいっぱいになりました。

おかげ様で私は今順調に回復しておりますが、先生の力を必要としている患者さんはたくさんいると思いますのでどうかご自愛くださいませ。

そしていつまでもお元気でいて下さい。

先生このたびは、手術をしていただき誠にありがとうございました。先生に出会えたことに心より感謝します。

◎北海道札幌市

「命の大恩人 樋上哲哉先生」

平成 20 年 3 月、私は心臓疾患のため総合病院で治療を受けておりました。薬物の内服では症状の好転は期待できず、担当の医師から紹介を頂き、樋上先生にお目にかかる機会を得ました。樋上先生から僧帽弁、三尖弁の閉鎖不全で整復手術が必要と診断され、すぐに入院と手術の日程を決定して頂きました。

明るい先生のお人柄に惹かれ、思い遣りあるご説明を受け、何の不安も無く手術の日を迎えました。手術を終え ICU で麻酔から覚醒した時、意識はまだ朦朧としていましたが手術は成功したとお聞きし、握手をして下さったことでとれほど安堵し力強く思った事でしょう。以来 7 年が無事に経過し、心から感謝しております。定期的に通院し樋上先生の治療とご指導を頂いておりますが、一度は完全に失った命を取り戻して頂き、現在に到ったものと信じております。樋上哲哉先生、何時までも神業ともいえる技術を活かして、数多くの患者をお救い下さい。

◎北海道札幌市

感謝

年明け早々に風邪をひきまして微熱が 1 ヶ月以上続き、診察を受けに病院へ行きその結果肺炎と診断され 1 週間後に同病に入院、同日夕方突然呼吸困難になり大学附属病院へ緊急搬送され、ベッドに移された直後意識が徐々に薄れて来ました。だけとこのまま人生を終る訳にはいかない、妻と家族に言っておきたい事が有るとの思いが脳裏に浮びました。そして意識が回復したのは、搬送されてから 4 日後でした。その後平成 19 年 2 月下旬手術を受けました。病名は感染性心膜炎です。手術の内容は大動脈弁を人工弁に僧帽弁は形成したと聞きました。

術後は辛い事もありましたが先生を始め看護師、スタッフの方々の懸命な治療看護より徐々に回復、同年 3 月下旬無事退院する事が出来ました。

現在は以前と変わらない程の生活ができるようになりました。この事は先生に再び命を与

えられた思いで妻と共に感謝の気持を忘れずに日々暮しております。ほんとうに有り難うございました。まだまだ感謝とお礼の言葉を言いたいのですが、長くなりますので…。先生、お体に十分お気をつけられこれから医療の発展に御活躍、御尽力されます事、心よりお祈り申し上げます。ありがとうございました。

○北海道札幌市

樋上先生、先生がいらして一番の幸運児は私なのです。オフポンプでのハイパス(2本)手術第1号が私です。それで「最後迄面倒をみてあげます」と嬉しいお言葉を頂いています。忘れもしません 2006 年零下 12°C の 2 月 7 日午前、雪まつり大通会場で突然ずると雪の中に倒れこみ、自衛隊々員の方々に車椅子に乗せられ、更に救急車で運ばれました。すぐ右冠動脈にステント 2 本留置施術をして頂き一命をとりとめました。第 2 内科に入院し慎重なりハビリの毎日でした。別に前下行枝・左冠動脈に計 5 ヶ所 90% 以上詰まっているというので第 2 外科に転科。4 月初旬手術をして頂きました。術後胸痘は全く無く順調な経過でした。後日先生のご説明によりますと内胸動脈が意外と動脈硬化をしていたそうでした。手術は 4 時間程度で済んだそうです。今私は終活迄秒読みの段階にいます。明日の風の事を考えず今日の日を大切に生きてゆこうと思っています。

○北海道長万部

樋上先生、教授ご就任 10 周年おめでとうございます。私は平成 21 年 6 月に弁置換手術をして頂き、再び「いのち」を復活できました。術直前まで不安いっぱいでしたが、遠くから私を呼ぶ声が聞こえてきた時、「生きている」「心臓動いてる」と感無量でした。現在は同病院の第二内科で、術後のケアと治療をしております。精進と反省の日々のくり返しではありますが、規則正しい鼓動を感じるたび、樋上先生やチームの皆さんに感謝しております。樋上先生、これからも患者さんに未来に向える「光」をお与え下さいます様にご自愛なされて、ご尽力のほどを願っております。樋上先生に頂いた命を大切に過して参ります。心から感謝申し上げます。

◎北海道黒松内町

樋上先生、こぼれそうな笑顔、柔和な目、いつも同等な立場での態度、そんな先生のすべてが大好きでした。手術してから 3 年、今は只々感謝の念で一杯です。何処にいらしてもいつまでもお元氣でご活躍されますことをお祈り致しております。ほんとうにありがとうございました。

○北海道江別市

「樋上哲哉先生の偉大な医術に感謝」

私は平成 25 年 3 月 5 日、樋上教授の医術恩恵により心臓左心房粘液腫瘍等、長時間手術を大成功賜った患者です。術後は経過良好で 2 週間で退院、退院後体力快復は毎日外歩行でした。不整脈、感染症も患わず 6 月 1 日職場に復帰、皆超人と驚きました。後々破裂危険手術必要の説明を受け、医大病院、樋上教授での手術を是非にと切望し樋上教授の偉大な医術を賜り大成功を収めいただきました。お陰様で健康感謝の毎日です。術入院中各先生、看護師皆様温かい御看護に感謝申し上げます。

○北海道恵庭市

拝啓 ライラックの花も開花し、新緑のさわやかな季節となりました。樋上先生、いかがお過ごしでしょうか。

3 年前、夫婦 2 人不安で、不安でどうしようもない中、樋上先生の所へ伺い先生の診察を受けた時、本当に心が軽くなり希望が持てた事を思い出します。

今は年に 1 回、樋上先生の診察の時に主人は先生から元気をもらって帰って来る様子。樋上先生が医大で診察をして下さる事がどれほど主人の心のささえになり、安心して毎日を送っていけるかと本当に感謝申し上げます。

敬具

◎北海道札幌市

初めて私が樋上教授に診察室にてお目にかかったのは、5 年前の 10 月でした。教授は始終にこやかに接して下さり、「お正月にはすっかり元気になっていますよ」とのお言葉、診察室を出た時には大手術への不安は全く無くなっていたことを覚えております。

入院中は看護師さんたちの限りない優しさに支えられました。それでも過去に二度心臓手術を受けていた私は、とこか緊張した面持ちだったのでしょうか。助手の先生が「何も心配は要りませんよ。樋上教授の腕はピカイチですから」と励まして下さり、安心して手術に臨むことが出来ました。

この秋には 80 歳になりますが、日々家事に勤しみ、時には友人とお茶を楽しんだり、趣味のハイオリンで若い仲間と室内楽の練習に励んだりしています。何の不安もなくこうして人生の晩年を過ごすことが出来る有難さを思う時、樋上教授、そして多くのスタッフの皆様への感謝の気持ちをいつまでも忘れないようにしなくてはと改めて感ずるのです。本当に有難うございました。

○北海道小樽市

「健康に感謝」

今、元気になれたのは執刀して下さいました樋上教授はじめ手術に携わったスタッフの方々のお陰であり、感謝申し上げます。

私が「虚血性心疾患」の手術受けてから7月で早3年が経過しました。同年の6月には「右頸動脈狭窄」で病院にて手術を受けましたが、この時血管の詰まりが95.5%にも達し、いつ脳梗塞を起こしてもおかしくなく、心臓血管においても同様、いつ心筋梗塞が起こるか分からない状態であったにも拘らず、自覚症状が全くなかった。今、これらを思うとき本当に健康には感謝したい気持ちで一杯です。樋上教授にはこれからも健康に留意され、私達患者のためにいつまでもお元気でご活躍下さいませ、お願い申し上げます。

○北海道長沼町

“左房腫瘍・不整脈” 3年前の8月、他科手術前検査で偶然見つけられた病名です。心臓に腫瘍ができるなどは、それまで聞いたこともなかったので、まさに青天の霹靂でした。腫瘍がかなり大きかったこともあり、今後予測される様々な不都合を回避するために摘出手術をする方向で治療方針が立てられました。

手術については、事前に詳細な説明をいただき、納得できたつもりでしたが、一方で高齢のため不安な気持ちも抱えておりました。ところが「この手術で命落とすことはないよ。術後の肺炎に気を付けねばね」樋上先生の明快なエールの一言で、肝が据わりました。

手術後、回診に見えられた際にも「卵食বেনさい、元気出るよ」と声をかけてくださった先生の大らかなお人柄と、先生を中心とした医療スタッフのあたたかなチームワークとにふれたことが、印象深く心に残っております。

◎北海道札幌市

樋上先生からいただいた命で、主人はきょうも市民農園へお出掛けです。

定年の月から突然発症した類天疱瘡で入院し、数日後に心臓の血管が3本ともつまっていてカテーテルも使えないことがわかりました。

プレドニン 50 ミリ、免疫抑制剤、糖尿病でインシュリンも使用し、手術は出来ない状態。病棟からも出ず、外泊も出来ずにひたすら手術出来る日が来ることを願い待ち続けました。プレドニンがやっと15ミリまで下がり、入院も1年半が過ぎた頃、「手術日を決めましょう」とお話いただいた時の樋上先生の笑顔は忘れることが出来ません。

先生の言葉は希望となりました。また、手術の数日前テレビに“目が釘付け”心臓外科のお医者さまが出ていた番組で司会の方が「もしあなたが手術を受けるとしたらどなたにしてほしいですか」と、そのお医者さまは「札幌医大の樋上先生です。手術がきれいだからです」と答えられました。後日看護の方にお聞きしましたら、「樋上先生の手術は、出血が少なくきれいなのですよ」と。

外来でお会いする先生はいつも満面の笑みで安心感をあたえてくれます。

術後の経過もよく、毎日畑に向かう後姿もたのしそう。すばらしい先生に出会えたことで今

の幸せがあります。ありがとうございました。感謝申し上げます。

主人は、先生に「術後“百年持つ”」と言われ気持ちがえら〜い元気になり、まわりの人達に誇らしげにいつもはなしていますよ。先生のことばはものすごーい力あります。

○北海道札幌市

今日は孫の誕生日、嬉しそうな夫や娘、孫達、家族の笑顔を見ていたら 4 年前心臓手術を受けた時の事思い出します。夫の入院。様々な検査を受けそして手術の日が決まりました。樋上先生の執刀です。不安げな私達家族を前に先生は「大丈夫」…と笑顔で接してくださいました。その一言がどんなに大きく力強くあったか。私の胸に響きました。今でも思い出すと胸が熱くなります。手術をうける夫はと言うと、様々に考えをめぐらせ遺書まで書いておりました。家族皆が緊張して無事に手術を終えた時は身体から力がぬけてしまいました。先生のお陰様で、今日こうして主人が元気で過ごせるのを家族皆で見守り、楽しく暮らしております。

先生、本当に、本当に有りがとうございます。

○北海道登別市

「神様の手に助けられて」

平成 21 年 11 月下旬、夫の百ヶ日の法要の日、77 歳の自分の身体に異変が起きました。私は 40 度を超える高熱が出て、登別市内の病院に入院。その後他の病院に転院となり、2 週間ほど治療を受けた頃、薬疹を起し札幌医大病院に移送されました。私の身体は薬疹とは別に、心臓の僧帽弁が炎症を起こしていたので、8 時間を超える手術となり、生体弁を神様の手でひと針ひと針縫い付けてくれたこと、長時間の手術が成功したこと、まして順調にこの世に生きていられること。私は手術後、しばらくしてから樋上先生のお陰で生き返ったことを知り、あの日から 7 年目を迎えようとしています。今もなお順調で、日中は花壇の手入れや野菜作りを楽しみ、2 か月に一度の通院は自分で運転して行きます。生きているということは本当に素晴らしく有り難いことです。

今、こうして幸福な毎を送ることができるのも樋上先生を始めとするお世話になった先生、看護師さんのお陰であります。心から感謝を申し上げます。樋上先生、どうぞこれからも、お身体に気をつけて患者さんの命を救ってください。

○北海道札幌市

私は平成 18 年 8 月、冠動脈入口の血管に 65%の狭窄が見つかり手術が必要との診断をされました。

当時通院しておりました、病院の院長に相談しましたところ、医大の第二外科に樋上教授と言う日本でも超一流の先生が就任され、冠動脈バイパス手術では先生が考案された術式があり、高齢者に適する（当時私は 76 歳）とのことで紹介状を書いてもらい、10 月にお伺い

しました。

診察室前に貼られておりました先生の顔写真付きの記事が目にとまり、読む程に感動し、手術に対する不安感が無くなり、まだ問診前ではありましたが先生に手術をお願いするよう決断しました。

10月11日に教授と初めてお会いしまして、1週後に入院し、手術を行っていただきました。術後の経過も良く、今日まで無事に過ごせておりますのも樋上先生のおかげであります。これからも医学会の若手の指導等、益々のご活躍を願ひまして私の挨拶とさせていただきます。

○北海道稚内市

今の私が在るのは、緊急搬送を決断して頂いた地元の医師、搬送して頂いた航空自衛隊の方々、何よりも命を救って下さった樋上医師や諸先生、スタッフの皆様のおかげです。

当時、前回12年前の2回の手術に比べて、痛みも経過もとても楽だったので、また次があっても安心だと思ったくらいです（冗談です）。今は、無理をしないように楽しく過ごすことを心掛けて日常を送っていますが、頼まれると嫌とは言えない性格と、何でも首を突っ込みたがる性分が災いすることも多々あります。年に一度、樋上医師の穏やかで温かい顔を拝見して、安心と癒しを頂いています。痩せるようにとのお言葉を守れない不出来な患者で大変申し訳ありません（涙）。

お元気にお過ごしになられまして、これからも益々沢山の皆様の命と身体と心を救って頂きたいと思ひます。

◎北海道紋別市

私は広域病院で内科の先生に発見していただき、すぐ別の病院にて検査、心臓に腫瘍有りと判明。手術をするなら医大でとの強い決意で望み、78歳透析もあり2013年3月心臓腫瘍摘出手術+僧弁形成手術を樋上教授にさせていただきました。

医療は患者さんのためにあるとの信条のもと、人の心の機微に感じる心と、大きく包容する人間としての幅と深さが、樋上ハートチームの目指す、理想、理念、思想がすべてのスタッフに浸透しており、相互尊敬の精神で皆さんには大変お世話になり深く感謝しております。お陰様で1年に1度の検診で自分は見えて頂く立場なので、樋上教授の尊顔を拝見するのを楽しみにしております。

術後は、後10年心臓は大丈夫と太鼓判を押して下さいました。家族共々最敬礼し深く感謝申し上げます。

○北海道江別市

拝啓 初夏の陽気のこの頃、心臓血管外科の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平成 20 年 2 月に夫の手術は、非常に難易度の高い手術で肝機能も低下し慢性腎不全で人工透析、ペースメーカーを装着している体での、大動脈の血管の一部を人工血管に交換、大動脈弁置換、僧帽弁置換、三尖弁形成などを行うハイリスクな大手術でしたが無事に成功し、術後に樋上先生と握手をし、成功を喜んだことを記憶しております。

また 平成 23 年 5 月に今度は私が大動脈弁置換、僧帽弁形成、三尖弁形成術の手術を行ってもらいました。この時は樋上先生と手術の成功を喜んだことを記憶しております。

術後にまずお世話になったのが ICU で、皆様方の献身的な看護には頭が下がります。入院病棟での看護師やリハビリを担当の理学療法士など、患者のわがままを笑いながら仕事を遂行する姿勢にはプロ意識の高さを学びました。手術に係わる方々が樋上先生以下、心臓血管外科(旧第 2 外科)に携わるすべての皆様方全員が医療チームの一員として適切な処置や看護などがあって、患者が命を預けられる信頼のおける病院が築きあげられていると思いました。

これもきっと樋上先生が医師としての患者に対する姿勢がすばらしくその後ろ姿を見て若い医師や看護師等に良い影響を与えているのだろうと感じました。

今日の生活を過ごすことが出来るのは、樋上先生以下、心臓血管外科に関係するすべての医療スタッフに、手術及び入院中は何かとお世話になり誠に有難うございました。重ね重ねお礼申し上げます。また 皆様方の更なるご発展を心よりお祈り申し上げます。 敬具

○北海道北見市

「教授就任 10 周年を祝して」

私は、平成 24 年 5 月僧帽弁閉鎖不全症、心室中隔欠損症、心房細動の病名で医科大学樋上教授の執刀で手術を受けました。

手術後は、自力歩行や階段の登り降りが制限されるなど自分の思うような行動ができないことに、定年退職を一年後に控えて今後のライフプランに不安で眠れない日々が続きました。入院中一番嬉しく励みになったことは、樋上教授の回診の際、心臓に聴診器を当てて「いいね。順調だよ」との一言で何回涙を流したか今でも忘れません。同年 6 月、各先生、看護師さんの献身的な治療、看護により元気に退院することができました。これも樋上教授、心臓血管外科講座各先生のお陰であると心から感謝しております。

本当にありがとうございます。

樋上教授におかれましては、ご健康に十分留意され、心臓血管外科の第一人者として、益々お力を発揮してくださいませようお祈りしております。

○北海道札幌市

三年前、大動脈弁狭窄症という病名に驚き、その後の手術の結果、元気で生活できる事を夫婦とも感謝しております。

あの時、日頃お世話になっている近所の先生に心臓、血管の検査を勧められ紹介状を書いて

頂き、樋上先生にお会いする事ができました。多少の息切れは加齢によるものと思ひ、他に自覚症状もなく過していましたが、このまま知らずに検査も受けず、手術もしなければ突然死もあったかと思うと「不幸中の幸い」「九死に一生を得た」と思っております。

手術前の面談で樋上先生から手術は技術的には 100 パーセント成功すると心強い言葉をいただき、安心して手術を受ける事が出来ました。

入院中 2、3日は多少の辛さはありませんでしたが、治療やリハビリにむけ色々とお世話して下さいました先生達や看護師さん達に支えられ、苦勞もなく退院出来ました。

これからも心臓の病に悩む人達をひとりでも多く元気にしてあげてほしいと思います。

○北海道北広島市

私は、7年前樋上先生に心臓の手術をしていただきました。二度目の心臓手術（前回は 34 年前）で大変だったと思います。でも、意外に早く回復し、半月ぐらいで退院できたので驚きました。これも先生のおかげで感謝しております。

退院後は術後の経過もよく、今では受診も 1年に1回となりました。

先生に、大事にすると百歳までいられるよと励まされておりますので、前向きに生きていくつもりです。

樋上先生、これから百歳（あと 36 年）まで付き合ってくださいませよう、よろしく願います。

○北海道千歳市

「樋上先生へ感謝の思いを寄せて」

拝啓 この度は、樋上先生を囲む会の御案内を拝見させて頂き、先生に執刀をしていただいた患者の夫として誠に有難く、また患者に対する先生のお気使いがひしひしと感じられ、是非、本会に出席し先生にお会いさせていただき、当時の御礼と術後経過の近況をお話し申し上げたくペンを執らせていただきました。

妻は手術後、約 5 年の歳月が経ち回復後も順調に推移し、現在は投薬と定期検診のため 2 ヶ月に 1 回程度の通院はあるものの、今では日常の生活や屋外での軽い運動（パークゴルフ等）も出来る程に体力も戻ったようで、毎日元気で健康に過ごす事が出来るようになりました。これも一重に先生を始め担当医並びに御世話をいただいた病院のスタッフの皆様のお陰と大変感謝を致しております。

当時、妻の病名を聞いた時は病気に対する知識もなく、また心臓疾患という事もあり、妻は大丈夫だろうか、手術は無事に済むだろうかという不安が先に立ち、ショックで妻に話も出来ず精神的に若干落ち込んだのを覚えております。

そんな時、先生の患者、家族に対する暖かく心身ある相談に応じていただき安心して手術に臨ませてもらう事ができました。合併症も発症することなく、思ったより早く退院出来たことは本当にうれしく感謝の気持ちで一杯でした。

皆様方の力強い介護のお陰をもって、妻も今年の春無事、還暦を迎える事ができた事、また孫達の成長を夫婦で一緒に楽しめる事に心から感謝しつつ、樋上先生並びにスタッフの皆様に厚く御礼申し上げるとともに、増々の御活躍を祈念致しております。

有難うございました。 敬具

○北海道札幌市

私が71歳の平成24年1月、樋上先生、スタッフの皆様による大動脈弁閉鎖不全症の手術を受けました。先生から手術前、妻と一緒に病気の状態、手術の概要などをお聞きし、およそ7時間にわたる心臓弁の置換手術、手術のリスク、万が一への輸血準備などお話がありました。

まとめとして、私の事前検査データに目を通されてから「あなたの手術、心配は要りませんよ」と言われ、本当に心強く思いました。私が他の病院にて検査の結果、弁置換手術の告知を受け、不安が募り思案していた折、2年前、先生による複合手術を受けた元の職場の先輩から、病院での対応、医療技術の水準などの話があり、強く勧められました。今ではお蔭で一時間余りの軽いランニングもごく普通に楽しんでおります。毎日が術前以上の生活の質(QOL)を享受することが出来るようになり、家族ともども感謝しております。

これからもお元気で日本の医療技術向上に邁進されることを願っております。

◎北海道札幌市

総合病院の循環器内科部長にお世話になっていた私に、2010年「大動脈弁閉鎖不全症」との診断で医科大学心臓血管外科の樋上教授に紹介状を書いていただきました。紹介状をもって初めて札幌医科大学病院にいき、先生に診ていただきました。

先生は写真を診ながら2011年1月入院し、2月初めに手術しましょうと笑顔で現状を説明され細かな日程まで説明してくれました。私の中では、なぜか不安は全くなく先生の話に耳を傾けていたことを覚えています。それは先生の温かさであり、そして、包容力のある明快な話し方と笑顔であったと今でも思っています。

患者を不安にさせない先生の言葉の中に手術成功に対する強い自信を伺うことができました。術後の痛みも全くなく、2月末に退院、そして、3月11日の東日本大震災をテレビで見ることになり多くの方々が亡くなられ、自分の現況と対比しました。今は、毎日のウォーキングと仕事を続けて元気に生活しています。心より感謝申し上げます。

これからも多くの患者さんに手を差し伸べられ、明るい未来へと導いていただきますよう心より願っています。

◎北海道千歳市

前略

こ無沙汰いたしております。母が大変お世話になりました。

顧みますと、母が体調異変を掛かりつけの医師に訴えるも、異常はないとのことを聞き私は不審の念を抱き、同市の病院に診断を仰くと、心臓に重大な症状あり、直ぐに専門医に行きなさいと紹介状を書かれ、心臓血管外科が開設したばかりの病院にて診察していただきました。

「大動脈弁狭窄症」の診断を受け、完治するには要手術で高齢ではあるが可能であると担当医。私の師匠である樋上教授に一任しなさいと、初めて樋上教授の存在を知ったのでした。

2008年12月医科大学付属病院入院、樋上教授に診察を受け、21日に懇切丁寧な手術説明があり、風格と人情味あるお話しに、母はすっかり樋上先生に全幅の信頼を寄せ手術を受ける決心をしたと申ししていました。樋上教授が治療に携わった7000余命の内の手術成功例の一人であったのだと、この度のご案内から思い知りました。

一言で手術と言っても、係わる大勢のスタッフの皆様のベストを尽くされたお陰で健康回復を得る事ができたと、そのご尽力に対し筆舌に尽くしがたい感謝の気持ちいっぱい御座います。

樋上教授が指導された後輩の皆様が一つのファミリーとして、まさしく「医は仁術」の志で精進、実践されました功績に7000余命の本人はもとより家族は賞賛の意を向けていることと思います。

この度の「樋上先生をかこむ会」の趣旨は、その「医は仁術」の延長にある企画であることで感動を覚える一人であります。

お蔭様で現在96歳まで「おまけ」の人生を過ごさせていただいています。母は庭の木を見て、今年はきれいに花が咲いたね！と目細めています。"100歳までだいじょうぶですよ"と笑顔で樋上教授がおっしゃった通り、あと4年は春の開花の喜びを感じさせてあげたいと思っています。

繰り返しますが、感謝と樋上教授のますますのご活躍を祈念いたします。

○北海道伊達市

私は6年前、地元の病院で冠動脈の閉塞が見つかり「いつ逝ってもおかしくない状態です。バイパスの手術しかありません」と言われました。幸いにも樋上先生の執刀で手術を受けることができ、元気な体を取り戻すことができました。先生は私の命を救ってくださった恩人で御座います。また諸先生皆様にも御世話になり本当に有り難う御座いました。

お陰様で順調に回復し、現在は一年に一度樋上先生の診察を受けておりますが、受けることで今一度健康に対する生活に気を付けるよい機会とし大事にしていきたいと思います。

今は元気になれたからできることで日々を感謝しながら暮らしております。先生におかれましては益々の御活躍をお祈り申し上げお礼の言葉にかえさせていただきます。

○北海道札幌市

時が経つのは早くもうすぐ5年が過ぎようとしています。

手術前は3分歩いただけですぐ疲れ、歩きながら話すということも苦しく出来ない状態でした。

初めて樋上先生に診察を受けた時には、手術後は日常生活には困らないと思うよと言われて本当にうれしく思いましたが、手術は怖いという気持ちが強く、出来るなら受けたくありませんでした。

手術前日は病室にきていただき、あたたかい言葉をかけて下さり心強く思いました。樋上先生始め多くの先生方、看護師さん他私に携わってくださった方々本当にありがとうございました。

○北海道札幌市

拝啓 このたびは、樋上先生にひとかたならぬお世話になり、心より感謝いたしております。

5年前より心不全を繰り返していましたが、なかなか前へ踏み出せないでいましたが、かかりつけの先生の後押しで医大を紹介されました。

生死の覚悟で臨んだ3回目の心臓手術でしたが、樋上先生の、安心して、大丈夫、とのその自信と笑顔に救われる思いでした。

助けていただいた命、大切に守って行きます。本当にありがとうございました。先生方々のますますのご活躍を心よりお祈りいたしております。是非、この会を長く続けて下さい。

○北海道札幌市

「入院の思い出」

ちょうど1年前、別の病院で冠動脈狭窄と診断された。そんなことはなかろうとセカンドオピニオンを求め医大に来た。同じ判定であった。しかもカテーテル手術ではすまない、バイパス手術だという。自覚症状がなかったのでショックだった。日頃かかりつけの医師からは「手術すれば突然死しなくてすむ」と慰められた。

樋上先生のお世話になることとなった。書店で買った「〇〇の病院」という本を見て、有名な先生らしいと知った。安心した。

長時間の手術は成功裏に終わった。ICUで目覚めた私は「無事生還」を実感した。あとは日に日に回復した。樋上先生のチームの皆さんに励まされて元気になった。医師の先生方は父母のようであり、看護師さんたちは天使のようであった。

今私は健康のありがたさを味わっている。樋上先生のご恩を一生忘れることはない。

○北海道江別市

樋上哲哉先生、有難う御座います、本当に有難う御座います。先生のお蔭で今も生きています。

私は、以前札幌医大で救急にて解離性動脈瘤手術を行っており、再び心臓関係の手術を行うのは難しいと云われていましたが、先生に大動脈弁置換手術等を 2007 年に施して頂き助かりました。お礼申し上げます。

その後（4 年後）に体調悪く、医大で検査入院し、体内 2 か所に渡り瘤（腹部大動脈瘤・胸部大動脈瘤）有りと判明。その上、貧血状態で、肺動脈性肺高血症を発症し呼吸に難が有り、手術は無理と一度は診断されました。僧帽弁置換手術など（2011 年 10 月）を先生に行って頂き成功の結果、心臓が働き、血流が改善し貧血が良くなり、お蔭さまで懸案の動脈瘤(2 か所) の手術を、その後医大で行って頂き成功しました。

先生は本当に私の命の恩人です

いつも感謝しています。

北海道札幌市

樋上先生、教授就任 10 周年おめでとうございます。心から御祝い申し上げます。

そして主人の健康をとり戻して下さったことに「有難うございました」の言葉を何度も申し上げます。

主人は 6 年前の 5 月に心臓手術を受けました。手術当日は私ひとりで待っていましたが、不思議な位気持ちは落ち着いていました。

それは手術前日の先生からの手術方法等についてのご説明によるところ大であったと思います。患者と家族への解りやすく納得のいく説明でした。手術後も図解入りで手術結果をお話し下さり一層安心しました。

樋上先生に出会い心から信頼出来るという大きな宝物をいただいた感じになりました。主人は現在、週 3 回スポーツジムに通い「水中ウォーク」「筋トレ」等、インストラクターによる無理のないメニューで身体をきたえています。

投薬を続けながらも日々元気に過ごしている主人の姿に幸せを感じています。

○北海道小樽市

「冠動脈バイパス手術患者としての思い出」

樋上先生との思い出に残る出会いは 3 年前に私が心拍動下冠動脈バイパス手術を受ける時であった。その頃活動時に胸痛が強くなり、心カテ造影所見で冠動脈の左主幹部が糸のように細くなっていたのには衝撃を受けた。

樋上教授から突然死するタイプであり、急いで手術する必要があること、手術により通常の生活、仕事に完全復活できるとの説明があった。この説明が当時新病院建設の責任者をしていた私を決断させた。手術日は私の誕生日であった。手術は極めて円滑に行われ、術後経過もよく 2 週間で退院し、3 週間目に仕事に復帰した。

実際の生活面では体力が落ちたこと、酒の味が変わったことに気付いた。これが回復するのに 3 ヶ月を要した。さて私より 18 日後に天皇陛下が同手術を受けられた。同じ患者として

陛下のお気持、体調を心配したが、一方でご活躍ぶりに敬意を払うとともに大いに励まされた。このような貴重な体験をすることができた。

○北海道北見市

陽春の候となりました。先生におかれましては益々御健勝の事とお慶び申し上げます。この度樋上教授先生には就任 10 周年を迎えられたとの事、ほんとうに御めでとうございます。心より御祝福申し上げます。

北見で診察を受けて何時も変らぬさわやかな笑顔で元気を戴いて居ります。

思い起せば 7 年前御縁を戴きまして医大にて手術をして戴き成功されました。また諸先生方看護師さんの懸命な介護のお陰で一ヶ月足らずで退院する事が出来ました。後に大動脈瘤と弁膜症を両方されたと稀に見る大手術だったと聞かされびっくり致しました。キット先生の御配慮と申します。先生との出会いがなかったら今頃はあちらだったと申します。

寿命 5 年と言われ今年で 7 年間も生かさせて戴き余生を楽しく過させて戴いて居ります。

有難く感謝の日々で御座居ます。

厚く御礼申し上げます。

益々御発展と御活躍をお祈り申し上げます。

乱筆乱文お許し下さい。

○北海道札幌市

私は 20 数年前から狭心症と不整脈で第二内科に通院しております。10 年程前の検査から心臓の僧帽弁に血液の逆流が見つかり年々逆流が多くなってきました。担当の先生より第二外科での診察を勧められました。

平成 19 年 11 月に初めて樋上教授の診察を受けました。先生は「僧帽弁の手術によって回復出来る」と言われ手術についての説明を受けました。私は、ぜひ先生に手術をして戴くことをお願い致しました。

12 月初旬、手術室入室から退室まで 10 時間にも及びましたが大変良い結果でした。その後、年一回樋上教授の診察を受けています。先生の笑顔とお言葉が大変心強く感じております。狭心症の治療も終え不整脈もなくなりました。

現在、元気で活動出来るのも樋上教授の手術によるものと深く感謝しております。

○北海道北見市

先生にお会いしたのは 2008 年 10 月です。当時、病院に勤務中、心筋梗塞の診断をうけ院長から札幌大心臓血管外科に名医の樋上教授を紹介いただき、早速手配いただき入院させていただきました。

手術の当日、教授から色々ご説明があり、手術の危険性は 1%~2%安心しなさいとのお言葉。私も高齢でもあり色々考え、手術を決断しお願いいたしました。

術後の結果大成功、図解を笑顔で説明。内胸動脈があり一本追加しておいたので何も心配なしとの声。

私も言葉にならない程心から大感謝いたしました。退院したら病院院長に恩返し再度働くことを考えました。

入院中は教授と担当先生には昼夜、夜中も病室にこられ色々お世話になり、改めましてお礼申し上げます。

教授を始め諸先生、看護師さん外職員のみなさん入院中色々とお親切心から厚くお礼申し上げます

◎北海道長沼市

“左房腫瘍・不整脈”3年前の8月、他科手術前検査で偶然見つけられた病名です。心臓に腫瘍ができるなどとは、それまで聞いたこともなかったので、まさに青天の霹靂でした。腫瘍がかなり大きかったこともあり、今後予測される様々な不都合を回避するために摘出手術をする方向で治療方針が立てられました。

手術については事前に詳細な説明をいただき、納得できたつもりでしたが、一方で高齢のため不安な気持ちも抱えておりました。ところが「この手術で命落とすことはないよ。術後の肺炎に気を付ければね」樋上先生の明快なエールの一言で、腹が据わりました。

手術後、回診に見えられた際にも「卵食べなさい、元気出るよ」と声をかけてくださった先生の大らかなお人柄と、先生を中心とした医療スタッフのあたたかなチームワークとにふれたことが、印象深く心に残っております。

○北海道北見市

「樋上先生へのお礼」

2013年3月中旬に心不全で札幌大附属病院に入院しました。

半月位の期間をかけて種々の検査をして、内科の先生に「弁に異常が見られた」と言われ手術が必要との事。

手術の2週間前に執刀する樋上先生に手術の方法、日程を説明され笑顔で自信に満ち溢れた樋上先生の顔を見ていると私は安心と一片の不安も持たず手術に臨めました。

さらに手術の5日前には夫婦で担当医師にも丁寧な説明で何の不安も持たずに手術に臨み、約11時間で終了。ICU、回復室を経て病室に戻ったが体中の包帯や管が1週間ですべて除去された。

リハビリは1週間余りで終わり、院内を自由に歩行できた時は本当に嬉しかった。そして5月には無事に退院でき、嬉しさのあまりに9月には富士山5合目まで登山し、昨年11月には家族で1週間ほどオーストラリア旅行を楽しんできました。今は家庭菜園やゴルフに夢中で特にゴルフは手術前よりもラウンド数が多いくらいです。

今回の事で一番感じた事は地方都市と札幌の大病院との「医療格差」で、施設、設備および患者に対する応対など大きな差があることは否めません。

最後になりますが今回お世話になった樋上先生をはじめ諸先生方に感謝を申し上げ、札医大附属病院の益々の発展を祈念して文を閉じます。

私の人生と家族に夢と希望と幸せを与えてくれてありがとうございます！

◎北海道札幌市

初めて私が樋上教授に診察室で、お目にかかったのは5年前の10月でした。

教授は終始にこやかに接して下さり、「お正月にはすっかり元気になっていますよ」とのお言葉、診察室を出た時には大手術への不安は全く無くなっていたことを覚えております。

入院中は看護師さんたちの限りない優しさに支えられました。それでも過去に2度心臓手術を受けていた私は、どこか緊張した面持ちだったのでしょう。助手の先生が「何も心配は要りませんよ、樋上教授の腕はピカイチですから」と励まして下さり、安心して手術に臨むことが出来ました。

この秋には80歳になりますが、日々家事に勤しみ、時には友人とお茶を楽しんだり、趣味のハイオリンで若い仲間と室内楽の練習に励んだりしています。何の不安もなくこうして人生の晩年を過ごすことが出来る有難さを思う時、樋上教授、そして多くのスタッフの皆様への感謝の気持ちをいつまでも忘れないようにしなくてはと改めて感づるのです。本当に有難うございました。

◎北海道新ひだか町

樋上教授と出会える事ができたのはちょうど1年前です。

今にも止まりそうな心臓をまだ医大の先生のお力で動いております。生きております。

2人目の孫が生まれた年のその月に心臓手術を行い、それから3度の手術、その度に医大の教授の先生の方々に助けて頂きました。

去年樋上教授に助けて頂いた事により、その時に生まれた孫の成人の晴れ姿を見ることができました。生きていてよかったと。

生かしてくれたことにうれしく、2人の孫が無事に社会人になるまで自分の心臓が、命が、永られる事に深く感謝しております。

入院中も他の先生の方々、看護師の皆様にとっても優しく接して下さり、これも樋上教授のお人柄が伝わっているものと感じております。

これからもより一層のご活躍、ご健康を心より祈念いたしております。

◎北海道札幌市

夕立ちの傘に響く調べを自然体で受け取れる様になりました。

手術も二度三度となると人生の岐路に居る様な気がして、もう此れ以上家族に世話を掛け

る事に心が痛み、入院前には写経に専念し心を落ち着かせようと思いました。

樋上先生が「手術しましょう」と言われた時は「生きられるこの手術を決して無駄にしてはならない」「生きるんだ」と言う気持ちが強くなりました。術後の痛みはほとんど感じずに生きている嬉しさで過ごして来ました。術後初めての回診で担当の先生が「あれを取ったのが良かったのですね」と言われ、樋上先生が「あれだろうと思っていたから」と言われた言葉が耳に残って、相当難しい手術だったのだろうと思いました。

娘に「朝 8 時から夜 9 時まで掛ったのだよ」と言われ再認識しました。本当に有りがとうございました。退院後、私の不注意で多々診察を受けさせて頂き、樋上先生始め沢山の先生、看護師様にお世話になり、今の私があります。本当に有難うございます。